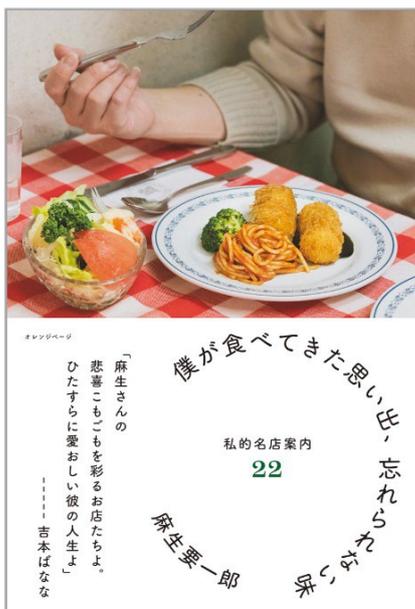


麻生要一郎の思い出を彩る名店案内 22

『僕が食べてきた思い出、忘れられない味』

10/23 刊行 吉本ばなな氏との対談も収録

株式会社オレンジページ(東京都港区)は、人気料理家、文筆家である麻生要一郎さんの書籍『僕が食べてきた思い出、忘れられない味 私的な名店案内 22』を10月23日(水)に刊行します。同社運営のライフデザインメディア「ウェルビーイング 100 by オレンジページ」の連載が一冊に。書籍化にあたり、麻生さんのお弁当ファンでもある小説家・吉本ばなな氏との特別対談が実現、「味わうのは料理だけじゃないから～そとのごはん、麻生さんのごはん～」も収録しています。



「麻生さんの
悲喜こもごもを彩るお店たちよ。
ひたすらに愛おしい彼の人生よ」

吉本ばなな(本書帯より)

麻生要一郎(あそう・よういちろう)

料理家、文筆家。家庭的な味わいのお弁当やケータリングが、他にはないおいしさと評判になり、日々の食事を記録したインスタグラム(@yoichiro_aso)でも多くのフォロワーを獲得。料理家として活躍しながら自らの経験を綴ったエッセイ&レシピ『僕の献立 本日もお疲れ様でした』『僕のいたわり飯』『僕のたべもの日記 365』(すべて光文社)を刊行。雑誌やウェブサイトでの連載も多数。

『僕が食べてきた思い出、忘れられない味 私的な名店案内 22』(帯あり)

読めば心潤う、麻生要一郎の私的な名店案内

麻生さん4冊目の書籍となる本書では、麻生さんの思い出を彩る飲食店を22店舗紹介。生まれ育った街の味、思い出の滲む老舗、ずっと食べ続けたい味、一息つける場所……自らの経験とともに綴られる文章が、読む人を温かく、時に切ない(麻生要一郎ワールド)に誘い、その味を疑似体験させてくれます。本書から伝わってくる、人とのつながり、日々生きることの大切さ……。心潤う、温かいスープのような一冊です。



食べたいものを好きなお店で、しっかり食べれば、
それは明日への糧になる。(中略)
皆さんも、山あり谷ありきつと色々あるでしょう。
ここに掲載されているお店、あるいはこの本が
そんな日々の支えになれば僕はとても嬉しいです。
(本書「はじめに」より)



1. 麻生さんが長年暮らした水戸で、母、祖父母と三代通ったという「加寿美屋」の冷蔵ケース。「懐かしいような、見ただけで幸せな気持ちになるケーキがたくさん並んでいた」
2. 幡ヶ谷「喫茶 壁と卵」のカレー。麻生さんがパートナーと出かけたときは、2人で3種類のカレーを楽しむとか。「ごはんに添えられたアチャールも、爽やかな風味で美味しい。カレーもしっかりスパイスが効いて、軽やか」
3. 赤坂「花むら」で、食事の最後にかき揚げを天茶で。「父が早くに亡くなってから、母一人、子一人の人生だったので、母が闘病の末に亡くなった時、ひどい喪失感があったけれど、子供の頃に母と過ごした時間や一緒に食べた天ぷらが、確かにこのお店にあった事で、僕は随分と救われた」

【目次】

はじめに

僕が生まれ育った街・水戸：伊勢屋(甘味・軽食)、加寿美屋(パン・ケーキ) 他

思い出の滲む老舗：煉瓦亭(洋食)、花むら(天ぷら)、青葉(台湾料理) 他

ずっと食べ続けたい味：うどん豊前房(うどん)、喫茶 壁と卵(喫茶・カレー) 他

僕が一息ついている場所：ウエスト青山ガーデン(喫茶・軽食)、APOC(パンケーキ) 他

おわりに、にかえて(対談 吉本ばなな と 麻生要一郎 味わうのは料理だけじゃないから)



麻生要一郎『僕が食べてきた思い出、忘れられない味 私的な名店案内 22』

2024年10月23日(水)刊行 定価1980円(税込)

四六版、アジロ綴じ、188ページ <https://www.orangepage.net/books/1837>

※本書は、ウェルビーイング 100 by オレンジページ(<https://www.wellbeing100.jp>) の連載「僕が食べてきた思い出、忘れられない味」(2022年10月～2024年5月)をまとめ、加筆・修正したものです。

<このリリースに関するお問い合わせ先>

〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 16F 株式会社オレンジページ

総務部 広報担当：遠藤 press@orangepage.co.jp

【2/2】